



IEP,  
TEACCHプログラムの手法を用いた「家庭での指導」  
と「一人でべんきょう」の実践：  
小学校特殊学級での事例研究

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2017-07-27 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 畑中, 雅昭, 中保, 仁, 岡, 信恵, 亀淵, 興紀, 笠井, 保志, 白川, 理恵, 富田, 晃子, 長, 和彦, 古川, 宇一 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.32150/00008002">https://doi.org/10.32150/00008002</a>

## IEP, TEACCHプログラムの手法を用いた

### 「家庭での指導」と「一人でべんきょう」の実践

#### — 小学校特殊学級での事例研究 —

A Case Study of the Use of the IEP and TEACCH Programs  
in both a Special Class Employing Self-study and in the Home

畑中 雅昭(Masaaki Hatanaka)\*<sup>1</sup> 中保 仁(Hitoshi Nakayasu)\*<sup>2</sup> 岡 信恵(Nobue Oka)\*<sup>2</sup>  
亀淵 興紀(Kouki Kamebuchi)\*<sup>2</sup> 笠井 保志(Yasuyuki Kasai)\*<sup>3</sup> 白川 理恵(Rie Shirakawa)\*<sup>3</sup>  
富田 晃子(Akiko Tomita)\*<sup>3</sup> 長 和彦(Kazuhiko Cho)\*<sup>4</sup> 古川 宇一(Uichi Furukawa)\*<sup>5</sup>

本報告では、旭川市内にある小学校特殊学級の自閉的傾向と診断された男児へのIEP(個別教育計画)、TEACCHプログラムの考え方を取り入れた関わりについて述べたものである。朝起きてから家を出るまでの特に歯みがきと洗顔を中心とした行動の習慣化をめざし家庭での指導とその支援を工夫した。少しずつだが自発的に行動がみられるようになってきた。個別学習ではコミュニケーション能力の向上をめざして課題や指導の工夫を続けた。課題が終わると、「まるをつけてください」と言葉で要求したり、動作を表す言葉を理解したりすることができるようになってきている。

(キーワード: 自閉症 IEP TEACCH 特殊学級 個別学習 身辺自立 家庭との連携)

#### 1. はじめに

これまで特殊教育に携わったことのなかった畑中は自閉的傾向と診断されたA君と7ヶ月にわたって週2回、大有小学校松かさ学級にて一緒に過ごす機会をえた。初めはTEACCHプログラムについての実践的な研究の場を求めて松かさ学級を訪れた畑中にとって、実際にA君と関わることはTEACCHプログラムのみならず教育全般にわたって深く考えさせられるものとな

った。

4月に初めてA君の松かさ学級での様子をみたときには、手に絵本をもち、集団から離れて、教師の指示に従う様子もみられなかった。また、ラジオ体操にも参加する意志は感じられなかった。中保は、「教室を抜け出し、外へ行き、先生方で探したこともある。」と話していた。そんなA君とIEP、TEACCHプログラムの手法を用いて、関わりを始めることにした。

\*<sup>1</sup> 北海道教育大学旭川校特殊教育特別専攻科  
函館市立北星小学校

\*<sup>2</sup> 旭川市立大有小学校

\*<sup>3</sup> 北海道教育大学旭川校特殊教育特別専攻科

\*<sup>4</sup> 旭川肢体不自由児総合療育センター

\*<sup>5</sup> 北海道教育大学旭川校障害児教育研究室  
本研究は、平成9年度文部省科学研究、一般  
研究費(B)07451058の補助を受けた。

#### 2. A君について

A君は平成2年6月生まれ、7歳(平成9年12月現在)。7人家族である。1歳6ヶ月頃、いくら呼んでも振りむかない、「バイバイ」など教えてもやろうとしないことに気づき、2歳のときに乳幼児の健康相談で「知的な遅れがあるかもしれない」といわれた。A療育センターでは「自閉的傾向にあり、微細脳損傷」と診断され

た。6歳2ヶ月のT教育センターの就学についての巡回相談では、「中度の自閉症」といわれ、「少人数で手をかけてもらえるところが望ましい」ということで大有小学校に入学した。

### 3. 研究仮説

5月、6月のA君との関わりやミーティング（親・指導者）、PEP-Rのプロフィールなどを通して、家庭での生活面と学校でのTEACCHプログラムの手法を取り入れた関わりについて、仮説を立て研究を進めた。

仮説1 親のニーズをもとにして、朝起きてから家を出るまでの行動の課題分析をし、家庭で継続的に取り組むための支援を工夫することによって、歯みがき、洗顔を中心とした「朝の行動スケジュール」の定着を図ることができるであろう。

#### 〈仮説設定の理由〉

A君が朝起きてから学校に出かけるまでの行動（以下、朝の行動スケジュール）を一人でできるようにすることは、母親の強い要望であった。また、TEACCHプログラムでは、身辺処理のスキルを獲得することが、自立性を高めていくと考えている<sup>1)</sup>。さらに、朝の行動スケジュールは、家庭での指導が中心となるが、スキル獲得のために教師がどのような支援を行っているのか、その方策を探りたいと考えた。

仮説2 日常の観察、心理検査、親・指導者とのミーティングなどを通して、ワーク・エリアを活用し、課題の精選、個別指導の工夫をすることにより、コミュニケーション能力の向上を図ることができるであろう。

#### 〈仮説設定の理由〉

A君は自分の要求を相手に伝えるときには、泣いたり、叫んだりすることが多く、家庭でも学校でもなかなかその要求を理解することが難しいのが現状である。TEACCHプログラムにおいても、日常生活および社会の中で自立して活動するためには、自分の意志を伝え相手の意志を受け入れることが常に要求されると考えてい

る<sup>2)</sup>。A君は、絵本を読むこと、気に入った言葉を紙に書くことを好むので、興味・関心に基づく課題や個別指導の工夫によって、コミュニケーション能力の向上をめざしていきたいと考えた。

### 4. A君を理解するために

#### (1) 行動観察記録

週2回、松かさ学級に訪れたが、登校から給食（時には下校まで）にいたる時間A君と学校生活をともにした。行動観察記録は、松かさ学級の担任教師と母親との「連絡ノート」と同様に、毎回、関係スタッフ、母親に渡した。それはA君の変容を知る手がかりになっただけでなく、スタッフの意見交換、母親とのミーティング時に学校での様子を話し合う際の資料としても活用できた。

#### (2) プロフィール

A君は今年度入学したばかりで、A君の特徴を把握することは、これからA君と関わりをもつにあたって重要事項であった。松かさ学級では、IEP初期アセスメント（領域別チェックリスト）<sup>2)</sup>にもとづいて、生育歴や状態像などの把握に努めている。さらに、家族がどのようにA君と接しているかを記述し、学校と家庭とが一貫性をもつ指導を展開できるように工夫している。

#### IEP 初期アセスメントの記述より

他の姉妹とできる限り行動を一緒にとることを心がけている。本を読んであげると非常に集中して聞くことが多いため、なるべく時間をとり読んであげるようにしている。学校では友達、その他の人々とのコミュニケーション及び集団生活の中の自分を多少認識できるように期待したい。手先の器用さと性格の几帳面さを生かした仕事につけ、自立できることを期待している。

A君は、家庭の中では、他の姉妹と同様に育てられ、興味・関心のあることが制限されることは少ない。学校生活に期待していることや将

来への見通しなど、しっかりしたビジョンをもって養育されている。

### (3) IEP 初期アセスメント

IEP 初期アセスメントによるとA君は、簡単な絵や文字（ひらがな・アルファベット）に興味をもって、テレビやカセットを一人で操作することもできる。コミュニケーションが成立しないことがあり、周囲が理解できず、混乱してしまうことがある。日常生活においては、身辺処理が不十分である。また、外出は大人につきそいが必要である。

「子どもの生活スケジュール」によると、平日は、朝学校に行くまでの準備に母親の支援が必要であり、休日は、外出したときの行動に手が掛かることがわかった。「子どもの現在の生活環境（生活地図）」では、母親とともに出かけ、近所の店に行くことが多い。「親のニーズ／家族の希望の確認」からは、生活面では、身辺自立などの生活習慣の確立と公共施設の利用に関係すること、学習面では、絵や文字をかくことに興味をもっているが、その内容の充実が求められている。行動面では、集団で生活する際の行動の制御が求められている。

### (4) ミーティング（親・指導スタッフ）

週に1度指導スタッフが北海道教育大学旭川校情緒障害児教育特別専攻科古川研究室にてA君の関わりについてのミーティングを行い、指導の方針、手だてなどについて話し合いをもった。特に、仮説1の朝の行動スケジュールと仮説2の個別学習の課題や指導の方法、家庭への支援の仕方などを話し合い、実践を進めていった。

### (5) PEP-Rの診断結果（実施日平成9年6月16日）

A君の個別教育プログラムを作成するために必要なフォーマルな評価として、PEP-Rを実施した。合格した数では、「知覚」に関係する部分が他の項目に比べると優れており、ついで、「微細運動」が続いている。プロフィールの中の『手先が器用』と記述されていたことを裏づ

けている。芽生え反応では、「模倣」「言語理解」「言語表出」に芽生え反応が高く、A君が今後の学習によって伸びる可能性が高いと考えられる。畑中との「一人でべんきょう」の課題を考える上の有力な手がかりをえた。

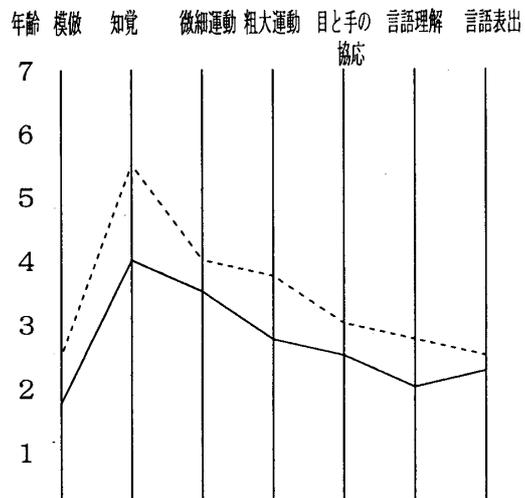


fig.1 PEP-R発達尺度プロフィール

## 5. 松かさ学級における実践研究の取り組み

松かさ学級における実践研究の取り組みは「生きる力を育て楽しく学校生活ができる」ことをめざし、身辺自立、目と手の協応、微細・粗大運動、理解、表出言語などの諸認知を観点とする「できるようになるよろこび」と成就感による自信、分担による責任、模倣、協力、きまり、社会的ルールを観点とする「参加するよろこび」の2点を両輪として進めている。したがって、2つの仮説に伴う研究実践も松かさ学級における研究の流れをくんだ<sup>3)</sup>。

## 6. 朝の行動スケジュール支援の経過

### (1) 第1期（7月3日～8月28日）…朝の行動スケジュールの作成

A君の家庭と指導スタッフである中保、畑中の三者で家庭におけるスキルの獲得をめざして、朝起きてから登校するまでの一連の流れを課題分析し、母親が中心となって指導にあたることにした。中保がモデルを示して、家庭に提示した。次に、親と畑中とでスケジュールをA君に

合わせて表にまとめた。この朝の行動スケジュールは長期的な見通し（1年間）をもって取り組むことにした。さらに、当面の重点課題を歯みがきと洗顔にしぼり、スケジュールの構造化の手法で歯みがきと洗顔の順序や方法を視覚的にわかるように図、文字で示した。朝の行動スケジュールのチェック表を作成し、スキルの獲得の変容を把握するとともにつまづいた行動についてはフィードバックを図った。

第11回目の記録 97、7、7、(MON)

- ・ひとつひとつの動きをお母さんが実演し、手を貸し、行動を理解させながら進める。
- ・ひとつの行動、例えば歯みがきが終わったら「はみがき」というカードを袋に入れ、次の行動に移っていく。

スタッフのミーティングより 97、7、10 (THU)

- ・歯みがきは、カードを作って順番を指導する。初めの段階は歯の表面、下の奥歯の噛み合わせを中心にしていくことをめざし、定着できたら、裏などもめざしていく。
- ・洗顔では、目の部分を洗うことに困難さが予想されるが、他の部分についてはわりあい容易にできるのではないかと考えた。

朝の行動スケジュール (A君用)

☆A君 あさ がんばること

- 1 おはようございます
- 2 ふとんの かたづけ
- 3 ひとつめの きがえ
- 4 あさごはん
- 5 ごはんの かたづけ
- 6 はみがき
- 7 かおあらい
- 8 ふたつめの きがえ
- 9 かばんの ようい
- 10 がっこうへ いく じゅんぴ
- 11 あしたの がっこうの じゅんぴ

洗顔行動手順表

- 7 洗顔

- (1) 洗面器に 水を入れる
- (2) 水を すくって 顔に かけ  
目を 3回 こする
- (3) 水を すくって 顔に かけ  
鼻を 3回 こする
- (4) 水を すくって 顔に かけ  
口を 3回 こする
- (5) 水を すくって 顔に かけ  
ほっぺを 3回 こする
- (6) 水を すくって 顔に かけ  
おでこを 3回 こする
- (7) 水を すくって 顔に かけ  
大きく 3回 こする
- (8) タオルで 顔を ふく
- (9) 水を とりかえる タオルを ゆすぐ
- (10) タオルの まん中を もち しぼる  
(ゆっくり5)
- (11) 広げて ほす
- (12) 水を すてて 洗面器を かたづける

A君用の朝の行動スケジュールを、A君の洋服ダンスにはり、意識させることから家庭での指導が始まった。朝の行動スケジュールは11項目になった。歯みがきと洗顔の指導を重点的に行うが、これら以外の指導も細かくスケジュール化したのは、A君にとって朝の行動に対して明確な見通しをもってもらうためである。A君がそれぞれの行動を行う場所に行動の順序を明示した行動手順表 (A君用) をはり、自分自身で確認し見通しがもてるように配慮した。歯みがきの絵カードは、リングで止め、洗顔の絵カードは一覧表の形式をとった。

(2)第2期 (9月2日～11月27日) …タオル絞り と雑巾絞りの相乗効果

第1期の「朝の行動スケジュール」の反省を母親、畑中、中保の三者で行った。「ひとつめの着替え」がなかなかスムーズにいかず、全体の流れに影響してしまうこと、歯みがきでは、歯ブラシが思うようにもてないこと、コップの中の泡にこだわってしまうこと、洗顔では、目に水をかけることを嫌がってしまうことが確認さ

れた。洗顔については、学校のプール学習を通して水に慣れることを期待した。しかし、顔に水がつくと一目散にタオルにむかって行ってしまふ。そこで、水ではなく、ぬるま湯で試してみることに、すぐに拭けるようにタオルをすぐ近くに用意することにした。また、洗顔時のタオルを濯ぎ、絞るという行動も十分ではなかったので松かさ学級での仕事分担の改編にあたって、これまでのゴミ捨て係から雑巾がけの係に変更し、家庭と学校が同じ指導方法で取り組んだ。タオル絞りが上手になることで、洗顔についても相乗効果があがることを期待した。

(3)第3期(12月2日～)…朝の行動が統合化し始める

洗顔をぬるま湯を使い、タオルをすぐ近くに置いてみたところ以前に比べ、抵抗感がなくなってきたこと、学校でも係の仕事で水に慣れてきたことを受けて、朝の行動スケジュールの改善を図った。他の要因として、季節が夏から秋・冬と移り、着替えの内容も変わったことや行動の理解によって「タオルを横に置き、洗面器の水を捨て、洗面器を片づける」などの複数の行動の流れの中で続けることが可能になってきたことがあげられる。朝の行動スケジュールの改善を進めるにあたって、母親の意見から項目の加除や入れ替えを行い改善版を作成した。行動がA君の実生活にもとづき、家庭での指導により役だてやすいものになった。歯みがきの絵カードはリングで止めたものであったが、歯ブラシをもちながらカードをめくることは、なかなか難しいので、改善版では、洗顔同様、どちらも一覧表の形式をとり、行動の流れがわかりやすいものになった。

朝の行動スケジュール【改善版】(A君用)

- |     |       |        |
|-----|-------|--------|
| ☆A君 | あさ    | がんばること |
| 1   | おはよう  | ございます  |
| 2   | きがえ   |        |
| 3   | ふとんの  | かたづけ   |
| 4   | あさごはん |        |
| 5   | ごはんの  | かたづけ   |

- |   |                 |
|---|-----------------|
| 6 | はみがき            |
| 7 | かおあらい           |
| 8 | がっこうへ いく じゅんぴ   |
| 9 | あしたの がっこうの じゅんぴ |

○歯みがき



○洗顔



fig.2 絵カードの例

7. 個別学習「一人でべんきょう」指導の経過

「一人でべんきょう」は、コミュニケーション能力を育てることをめざし、①指示の理解、②自己表現、③自己選択をねらいに掲げるとともに、①文字や音声言語、そしてそれ以外の何らかの手段で自分の思いを伝えたり、相手の思いを受け取ることができるようになってほしい、②場や相手に応じたやりとりのマナーを身につけてほしいという願いをもっている<sup>3)</sup>。

「一人でべんきょう」の進め方は、①「べんきょうカード」をもってくる、②カードをワーク・エリアのカード入れに入れる、③1、2、3のカードにしたがって、棚から課題を取り出す、④ひとつの課題が終了したら、課題を棚に戻し、カードを裏返す、⑤全ての課題が終了したら、「べんきょうカード」を廊下の箱に入れ、自分の好きな活動をする。

(1)第1期(5月22日～6月19日)…A君と畑中の1対1の関係の認識

A君との個別学習「一人でべんきょう」を始めるにあたって「何を教えていくのか」と「ど

のようにA君と関わったらよいのか」の2点が不安材料であった。まずA君に畑中という存在を認識してもらおうという願いを第一に掲げた。「一人でべんきょう」の時間がA君にとって「自分のお気に入りの活動ができる時間」にしていることをめざした。

第2回目の記録 97、5、27、(TUE)

○一人でべんきょうの説明(朝の会終了後)

・中保先生の近くに呼ばれ、おとなしく近寄ってくる。「Aのカードだよ」といわれ、手にするが無感動な表情に見える。

・「一人でべんきょう」の机の確認に並んで行く。途中で大好きな絵本を見つけ、手に取ろうとするが、拒否され、「あー」と一言、険しい表情となった。

・「一人でべんきょう」の机にすわらされるが、絵本がほしかったのか、涙を流している。(今やっていることをストップされるとパニックをおこすというのはこれだろうか?)

構造化されたワーク・エリアとの初めての出会いの様子は、「これから本当に個別学習が成立するのだろうか?」という不安を感じさせた。

第7回目の記録 97、6、6、(FRI)

<本日の課題>

○1の課題…ぬりえ

「パラソルへんべえ」と「アトムへんべえ」のA君が以前かいたものを大きく拡大コピー(A4サイズ)し、指定した色のクレヨンで指定した箇所に塗る。本時は2枚とする。

○2の課題…名前書き

A4サイズの紙にあらかじめ4マス、3行の四角をかき、その中に、こちらの指定する言葉を鉛筆で書く。本時はA君の家族の名前(7人)を書くことにする。

○3の課題…数字の型はめ

「0、1、2、3、4、5、6、7、8、9、＝、－、＋、×、÷」の数字などの型をはめていく。例をみながら、指定した数字の順に行う。2回実施する。

「一人でべんきょう」をA君と初めて行った

が、畑中自身の課題に気がついた。それは、①賞賛の言葉がけが少ない、②拒否の態度がみられたときに課題を中止する、最後までやり遂げるさせるかの見極め、③「一人でべんきょう」終了後、どこで好きな活動をするのかなどである。特に、A君自身が感じる「自分の好きなことができる」という願いと畑中が求めている「課題の身につけさせたい内容」をどのように適合させるかがみえてこなかった。さらに、「一人でべんきょう」することへの習慣化も難しいと感じた。

6月19日に、畑中とA君の間に「一人でべんきょう」における1対1での学習の関係が成立した。A君が席から離れようと抵抗する、声を出して課題を拒否するといった状況を示した。

「今は自分の席で学習する時間なんだ」ということを理解してほしいという願いのもと、強制的にもみえるが、A君を席に戻して課題3に取り組ませた。数字の型はめがA君の興味・関心を捉え、「自分の好きなことができる」と認識したのか、楽しそうに課題3に取り組んだ。この「自分の好きなことができる」というA君の興味・関心から出発して課題を設定していくことを学んだ。

(3)第2期(6月24日～9月9日)…言葉による要求「～してください」

第2期は、音声言語と具体的な動き、活動をマッチングさせることをねらいとして、白抜きのひらがなを「ぬってください」、「かいてください」、「よんでください」という文字と絵を使ったカードによって、コミュニケーションを図っていくことにした。

第8回目の記録 97、6、24、(TUE)

①白抜きのひらがなをクレヨンで色を塗る

・画用紙の白抜きされた「ま、す」の2字をチビたクレヨンで塗りつぶす。

カード 「ぬってください」を導入

②ノートに文章を赤ペンで書き、鉛筆で「鉛筆グリップ」で薄くてもよいからなぞる。

カード 「かいてください」を導入

③なぞった文を音読する。

カード「よんでください」を導入

・要求を伝えるために、カードを使うとよい  
ということを理解させたい。→音声言語と  
具体的な動き、活動を結びつける。

第2期の後半には、課題に「作業的要素」を  
加味した方法を試みた。

第19回目の記録 97, 9, 2, (THU) 指示シート

102 おなじものは どれかな。

- ①  をください
- ②  をください
- ③  をください
- ④  をください
- ⑤  をください
- ⑥  をください



まるをつけてください

第2期、A君は「一人でべんきょう」に意欲  
的で、3校時を知らせるチャイムが鳴ると遊び  
から教室に戻り、個別学習の時間を心まちにし  
ているように感じた。学習の仕方も理解し、「ま  
るをつけてください」という言葉もひとつの課  
題が終了するとカードを手にして畑中に発声し  
て要求することができるようになった。「形に関  
する課題」では、作業学習の要素である「シー  
トの指示通りに課題を進めていく」ことも少し  
ずつできるようになった。課題の中の「らっぱ  
(の絵)をください」という要求も課題を進め  
ていくために畑中にいわなければならず、繰り  
返し使ううちに身についてきた。これが日常生  
活でも自分の要求を伝える手段として広げたい  
と感じた。「数に関する課題」は、K君がもとも  
と数字への関心が高く、順序を表す数は口で唱  
えたり、紙に書いたりしていたので、量を表す  
数についても取りあげたところ、1から12まで  
の数の半具体物とのマッチングにおいて良好な  
結果をえた。「ひらがなに関する課題」では、「手、  
火」のような一文字の言葉と絵のマッチングが  
まだ不十分であったが、近い将来、文章の理解  
へと進む手がかりをえた。

(4)第3期(10月7日～)…「Aちゃんが ○  
○を ~しています」の理解

指導スタッフのミーティングにおいて、A君  
の個別学習の課題について再度見直しを行った。  
課題は「(格)助詞を使って文を作ったり、文で  
話したりする」ことをねらって、A君の生活に  
関係する絵と主語+述語からなる文とのマッ  
チングを行うことにした。また、「筆記具の持ち方  
の矯正と正確な字形の練習」のために、白抜き  
の文をなぞることや間違いを消しゴムで消し、  
訂正することをふたつめの課題とした。ともに、  
第2期の後半から始めた「まるをつけてくださ  
い」の要求は、終わりの意識や確認の習慣化の  
ために継続して取り組むことにした。

がいてください。

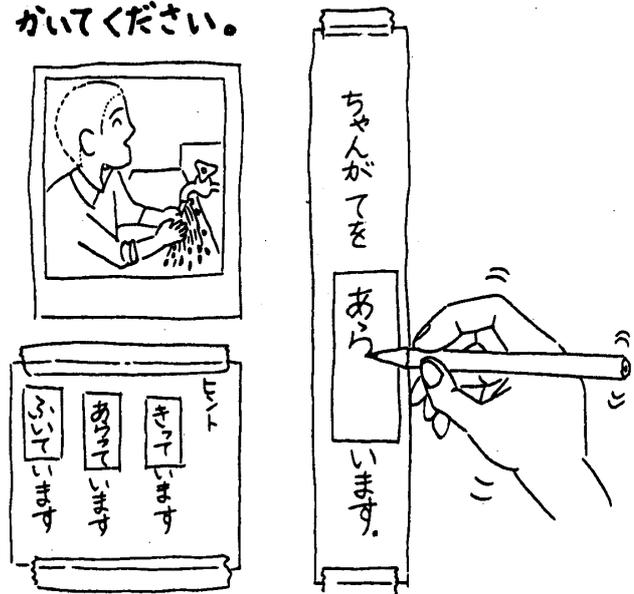


fig.3 3の課題学習ガイド

- 1の課題…限定を意味する「～だけ」の理  
解をめざし、ある数、あるものだけにシ  
ールをはる。
- 2の課題…ノートに書かれた始点・終点の  
印をつけた点線文字をなぞる。
- 3の課題…A君自身がある動作をしている  
写真と「Aちゃんが○○を～しています  
という文とのマッチング。

1の課題では、「～だけ」という理解がなかな  
か進まなかった。2の課題では、意欲的だが終  
点がはみ出してしまうという問題が出てきた。3

の課題では「だれが（主語）」、「何を（目的語）」は理解できるが「～している（述語）」の部分の理解がなかなか進まなかった。

1の課題では、色を使って数と「だけ」に注目させると、以前に比べ正解が増えた。2の課題でも終点を目だつ色に変えたところ変化が出てきた。3の課題では、述語部分を「書く」ことに変えたところ、めまぐるしい変化がみられた。

第41回目の記録 97、12、18、(THU)

1の課題…きめられた数だけ○で囲む(9題)

黄色 赤

① <sup>ひとつ</sup> **1つ** **だけ**に ○をつけなさい。

アンダーライン

☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆

② <sup>ふたつ</sup> **2つ** **だけ**に ○をつけなさい。

☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆

・色を使って数と「だけ」に注目させ、さらに、各問いごとに枠で囲んだ。

・1回目の正答は9題中8問(前回は9題中5問)となった。

3の課題…写真を見て、語句を書いて文を完成させる(7題)

・1回目で正解した文

①Aちゃんがはをみがいています。

②Aちゃんがきゅうしょくをたべています。

(新出)

③Aちゃんがごみをやいています。

④Aちゃんがてをあらっています。

⑤Aちゃんがパラソルへんべいをみています。(新出)

⑥Aちゃんがふくをきています。

・3回目で正解した文

⑦Aちゃんがふとんをたたんでいます。

・前回以上に、積極的に取り組んでいた。文とヒントを畑中が腕で隠して写真に注目させると、ヒントをみる前に書き出した問題もあった。(①、③、④、⑤)

## 8. 家庭における指導の支援

畑中が松かさ学級でA君とどのような関わりをしているかを行動観察記録によってお母さんにお知らせした。客観的な記述とねらいをもって関わった場合の感想など、朝の出会いから、別れるまでをできるだけ網羅しようと心がけた。さらに、心理検査の結果や指導スタッフの話し合いの内容もこの行動観察記録にのせた。

家庭との定期的なミーティングはもてなかったが朝学校に送ってくる母親と短い時間であっても、話し合いの機会をもつよう心がけた。A君の「一人でべんきょう」の様子や朝の行動スケジュールの状況や指導への助言、A君の行動上の変容を話し合った。「親のニーズ/家族の希望の確認」、「朝の行動スケジュール」のミーティングでは、あらかじめ母親に時間の予定に入れてもらい、中保、古川の同席のもとミーティングを開催した。

## 9. 生活単元学習との連携

松かさ学級では、個別学習時間は、それぞれの子どもの特性に依じて用意しているが、全体の流れは障害の種別を問わず、全員の子どもが同じような日課で送っている。A君は、集団生活の中でなかなかみんなと歩調を合わせて生活することになじめなかった。スケジュールの構造化によって、一日の流れの見通しがついたこと、「一人でべんきょう」によって学習への自信がついたことが、集団生活におけるスキルを獲得していった要因のひとつと考えられる。

朝の会の様子は、4月には、手に絵本をもち、学級のみんなが座っていてもフラフラ廊下に出ていってしまったが、現在では、朝の会での出席の返事、健康調べ、昨日のできごとの発表、自分の仕事の発表などの仕方がわかるに従って、参加できるようになってきている。

## 10. 評価

A君との7ヶ月にわたる2つの仮説の検証を中心とした関わりは、これまでの行動観察記録

や母親や指導スタッフとのミーティング、2度目に実施した「子どもの生活スケジュール」、「子どもの現在の生活環境」、「親のニーズ/家族の希望の確認」などから評価を試みた。

### (1) 朝の行動スケジュール

第1期のチェック表からは、母親が行動を手にとってやらせることが多いことを読みとることができる。チェック表は67項目に渡ってチェックしなければならず、母親の負担はたいへんなものだったと推測される。第3期のチェック表は54項目に減少していることを考えるとわずかながら、行動が身についてきているといえるのではないだろうか。

11月に実施した「親のニーズ/家族の希望の確認」、「子どもの生活スケジュール」からは、生活面で朝の行動スケジュールに限らず、身辺処理に関わる行動の要望の広がりからもある程度の成果がみられると推測される。

### (2) 個別学習「一人でべんきょう」

第1期は1対1の関係づくりを、第2期は言葉による要求「～してください」の定着、作業学習の要素を取り入れて個別学習を進めた。第3期は、「Aちゃんが〇〇を～しています」の理解の課題に取り組んでいる途中である。コミュニケーション能力の向上をめざして、個別学習に取り組んできたわけだが、11月の「子どもの生活スケジュール<日常生活の日課(平日)>」の中では、帰宅途中に「パンを買たいです」「セブンイレブンに行きたいです」などの言葉による要求の様子がみられる。また、学校生活においても、「読んでください」、「紙をください」などの言葉による要求の場面が数多くみられるようになってきている。

### (3) A君の変容について

A君は、給食で苦手な牛乳やパンなどをスツと中保や畑中の机に移動させる。着替えでは、特定のクラスメートがいるとたとえ危害を加えなくても着替えない。朝、自分の個別学習の課題が用意されているかを時間に余裕がなくても確かめにくる。終えた課題は畑中のカバンにし

まうことを要求する。特定の手続きを踏む行動は多々あるのかもしれないが、A君は学校生活のさまざまな場面で成長している姿をみせてくれた。朝、登校して畑中の顔を見つけると、母親にうながされなくても「おはよう」と声をかけてくれる。4月、どんなときでも手放すことを拒否していた大好きな写真の入ったアルバムを隣の教室の机の上において朝の会に参加する。保育園時代から靴下を嫌っていたが、何の抵抗もなくはいている。朝の会では、絵本をもち、みんなから離れていたが、車座に加わり発表している。畑中の模倣の遊びをつきあってくれる。手を洗ったり、雑巾を絞るときに数える数は、「1から10まで」数えることが「81から90まで」に変わった。なわとびも100回以上楽しく跳べるようになった。雑巾は、上手に左手を返して絞ることができる。学校での様子は、行動観察記録の形式を改め、見出しやカットを入れ、雰囲気柔らかくした「Aちゃん News」にのせて配布した。

97.12.9  
Vol. 38  
札幌医科大学 保健医療学部

# AちゃんNews



**頭を洗うのも上手になってきたよ。**

お母さんの Meetingより

New歯みがき練習絵カードをお渡ししました。その時お風呂での「頭洗いのお話」が聞かれました。自分一人で洗うことを強く望み、耳にお湯が入らないようにシャンプーの泡を流す時も耳を手でブロックして保護しています。(入浴お風呂に入る練習も考えられます)

洗顔では、やはり、全体に水をかけるのがまだ苦手ですが以前よりも抵抗感が薄らぎつつあるようです。お母さんは、全体に水をかけることを「パシャパシャ」「サッパサッ」と表現を工夫されているそうです。(口では「サッパ」と言っているが実際には手が動かないのが現状のようです)

「ハンカチ作戦」については、お風呂にハンカチをポケットに入れるのが苦手なようです。(冬場お風呂の寒さの方がよいのかもしれない)

ラジオ体操が終了あと、そして、のびのびタイムで体育館に行きたときに、いきなり、ピアノを弾き出しました。といつも鍵盤をダーン、ダーンと打ち鳴らしていただけで...

しかし、Aちゃんは、音を出さなければ、歌も歌っていません。

以前、Yさんが弾いていた曲を聞いても、全然興味なさそうに感じていたが、何の影響なのだろうか?



ピアノの練習開始?



**ヨーイショッ! ヨーイショッ!**

70周年の記念式典も終わり、再び、ステージ横のロープをひきながら滑る大きなカブ遊びが復活しました。カブがぬけると「バンザイ、バンザイ」と喜びを表現しています。たった一人の遊びなのですが、畑中が一緒に声をあわせると一度抜けたカブをもう一度はじめかやり直してくれます。

のびのびタイム

**けんちゃんのおしごと!**

なわとびの回数をおぼえるのはもうずかり、Aちゃんの役割となりました。

畑中の顔を見て「Aちゃんのおしごと」は何度も答へに言ってくれます。

ただ、カウントを押しに専心になり、実際の回数を上まて押してしまったり、数のおぼえを押しに押し間違えたりもしています。

以前、120と200の区別がわからなかったのですが、300、400、500と大きな数も口から出てきています。

でも、最後に「Aちゃんのおしごと」は、ちゃんと覚えて、おしごと、おしごと、Aちゃん!

Fig.4 Aちゃん News

## 【子どもの生活スケジュール】(平日)

6月

11月

時間	活 動
6:00	起床 (一人で起きる)
7:00	洗顔 (ふいてあげる) 朝食
8:00	(名札の服を着ない) 登校 (長靴、サンダルなどで車に乗り込む)
}	学校
2:00	下校 帰宅
3:00	ゴミを燃やす (火をつけるのは母親) 自転車遊びなど
4:00	
5:00	
6:00	夕食
7:00	風呂 (家族と一緒に入る)
8:00	歯みがき 就寝
9:00	

時間	活 動
6:00	起床 (起こすことが多い)
7:00	着替え (いわれてやる) 布団の片づけ (母親と一緒にやる) 朝食
8:00	歯みがき (歯みがきを始めればいわれなくても洗顔に移る) 洗顔 登校準備 (順序は不十分) 登校
}	学校
2:00	下校 帰宅 (途中で買い物の要求)
3:00	ゴミを燃やす (たまったら燃やす) 絵本
4:00	ビデオ
5:00	
6:00	夕食
7:00	風呂 (一人で入りたがる) 歯みがき
8:00	明日の学校の用意
9:00	就寝 (遅くなった)

(休日)

6月

11月

時間	活 動
6:00	起床
7:00	洗顔 朝食
8:00	
}	昼食
1:00	公園 (午前か午後、お弁当をもって、車で遠い公園へ行くことが多い) (どこへ行っても目を離せない)
6:00	夕食 風呂
7:00	
8:00	就寝

時間	活 動
6:00	起床
7:00	着替え 朝食 (合図でついてくれない、偏食) 布団の片づけ
8:00	歯みがき 洗顔
}	昼食
1:00	ビデオ屋 (1本だけ、1冊だけの指示に従う) デパート
2:00	ゲームコーナー 公園 (寒くなっても家にこもらせたくない)
}	
6:00	夕食 風呂
7:00	歯みがき 明日の学校の用意
8:00	就寝
9:00	

【子どもの現在の生活環境（生活地図）】

6月		
セブンイレブン	Aコープ	ふじスーパー
春光のホクレン、		郵便局
ガソリンスタンドとパン屋	自宅 - 学校	
東神楽森林公園		

11月		
永山 豊岡 富貴堂 セブンイレブン	旭山動物園 Aコープ	美瑛 T牧場 (ミニ動物園) ふじスーパー
春光のホクレン、 ガソリンスタンドとパン屋	自宅 - 学校	郵便局
東神楽森林公園	春の台公園	鷹栖神社
北方野草園	西武デパート	音楽教室

【親のニーズ／家族の希望の確認】

6月

11月

<p>&lt;生活面&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1、スーパー、公民館などのトイレに行けるようになってほしい。(公園にあるトイレには行ける。)</li> <li>2、うながされなくても挨拶ができるようになってほしい。</li> <li>3、洗顔、歯みがきなどを一人でできるようになってほしい。</li> </ol> <p>&lt;学習面&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1、タイトル、歌詞などだけでなく自分のことばが書けるようになってほしい。</li> <li>2、大小、多少、長い短い、昨日・今日・明日などのことばの意味を理解してほしい。</li> <li>3、集中できる時間を長くしていきたい。</li> </ol> <p>&lt;行動面&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1、何でも口に入れる(食べてしまう)ということをやめたい。</li> <li>2、社会的ルールを身につけさせたい。</li> <li>3、他人の物と自分の物を区別できるようになってほしい。</li> </ol>
--

<p>&lt;生活面&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1、公共のトイレに抵抗なく行けるようになってほしい。(そろそろ男子トイレに一人でいけるように練習させたい。)</li> <li>2、「朝の一連の行動」に限らず、しなければならないことを指示されなくてもやれるようになってほしい。</li> <li>3、簡単な買い物、又は用事(隣に回覧板を届けるなど)ができるようになってほしい。</li> </ol> <p>&lt;学習面&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1、簡単な文章が書けるようになってほしい。(「ぼくはきのう〇〇へいきました。」のような)</li> <li>2、大小、多少、長い短い、昨日・今日・明日などのことばの意味を理解してほしい。</li> <li>3、ひらがな同様にかたかなも書けるようになってほしい。</li> </ol> <p>&lt;行動面&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1、人の話を聞けるようになってほしい。</li> <li>2、社会的ルールを身につけさせたい。</li> <li>3、何でも口に入れるということをやめたい。(以前に比べ少なくなっています)</li> </ol>
--

6月と11月の2回、親のニーズ／家族の希望の確認の調査を実施したが、生活面では、身辺処理の問題から、家族のお手伝いを望むことに変わってきている。学習面では、抽象的な事柄の理解は引き続き変わっていないが、自分の行動を文章化することも望んでいる。行動面では、集団の中での行動の制御が引き続き望まれている。

## 11. IEPについて

IEPでは、チームプレイによって、少数の限られた人からの濃厚な援助ではなく、多くの人から薄い援助を受けながら生活することが地域社会での自立を可能にする。また、チームプレイは障害の特性への理解を深め、障害をもつ子ども一人一人を中心に据えた、確固としたシステムを確立することになると考えている<sup>1)</sup>。

この実践にあたり、A君の生活の質(QOL)の向上をめざし、朝の行動の定着のための支援や個別学習の指導を、A君の家庭・松かさ学級・北海道教育大学旭川校障害児教育研究室がチームプレイで行ったことは、日本式の個別教育計画の足がかりになったのではないだろうか。A君へのチームプレイ、松かさ式個別教育計画による関わりが継続されることを期待したい。

## 12. おわりに

12月2日の「一人でべんきょう」で1の課題では、初発の課題にも関わらず、何の見通しも与えずに取り組みさせてしまった。また、2の課題のねらいは、正しく文字をなぞることだが、消しゴムできれいに消すことを求めるなど、その場で思いついたことをやらせ、指導や指示に一貫性を欠いた。さらに、まるつけでは、72文字中33文字に×をつけた。その時、A君はノートを引き破り、声を出して泣き叫んで抗議した。指導の一貫性、適切性、継続性をめざして研究実践、A君と関わってきたはずの畑中にとって、たいへんショックなできごとであった。「教育とは、その子どもの無限の可能性を信じて、ほめ

ることから自信をもたせ、自主性のもと、子ども自らが学ぼうとすることを支える営みである。」と考えていた畑中の教育観を自ら否定する行為であった。初めての指導スタッフのミーティングで中保に「親しくなったときに危ない。」と忠告されていたが、まさに慣れてきた矢先のできごとであった。A君には、通常の教育、特殊教育に限らず教育とは何かということをしつくり、楽しく、そして、真剣に考える機会を与えてもらった。

## 謝辞

この実践を行うにあたり、機会を与えてくれた大有小学校、松かさ学級の先生方、児童のみなさん、そして、A君と家族のみなさん、研究を支えてくれた専攻科の仲間から感謝いたします。

## 文献

- 1) G.メジボフ他(1990)：自閉症の療育者、財団法人神奈川県児童医療福祉財団
  - 2) 安田生命社会事業団(1995)：個別教育計画の理念と実践
  - 3) 大有小学校(1997)：大有の教育 開校70周年記念 第30回実践研究発表会研究紀要
- ・E. ショプラー 茨木 俊夫(1995)：自閉児発達障害児教育診断検査 心理教育プロフィール (PEP-R) の実際、川島書店
- ・DMS-IV「精神疾患の分類と診断の手引き」(1996)：医学書院
- ・ICD-10「精神および行動の障害」(1994)：医学書院
- ・インターネットホームページ  
<http://www.ozoze.or.jp/udaka/autism/matome.html>
- ・ドナ・ウィリアムズ(1993)：自閉症だったわたしへ、新潮社